

社会学部

I 2020年度 大学評価委員会の評価結果への対応

【2020年度大学評価結果総評】(参考)

社会学部は2018年度から導入された新カリキュラムの円滑な運営を図る中で、将来構想委員会においてよりよい語学教育のための方向付けをするとともに、学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図るために、学生からのフィードバックを得ることも考慮に入れる必要がある。

また、コロナ状況下で、オンライン授業で学生に有効な学びの場を提供することは必須であり、教員間の実践についての情報交換による創意工夫が望まれるほか、図書館の利用制限下での卒業論文の指導については、資料として書籍のみならず、ウェブ上で入手可能な学術データベースの活用についての学生への情報提供なども検討すべきであろう。

コロナウイルス感染拡大による制約が厳しい中、学生有効な学びの場を提供するという重点目標の達成を期待したい。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況】

コロナ禍ではあったが、2018年度の大規模カリ変で未着手であった語学の新カリキュラムを2022年度からスタートさせるため、将来構想委員会で語学のカリキュラム改革について議論し、語学の中上級科目をもう少し気軽に履修できるような位置づけの変更や選択語学の履修の阻害要因となっていた履修単位上限の引き上げについて教授会の了承を得た。科目のスクラップアンドビルドも行った。

4月から突然の授業のオンライン化が学生に与えた影響については、第12回学部長会議資料1の教育開発学習支援センターのアンケートの学部別集計によりある程度把握できた。社会学部1年生の不満は友達の不在、友人関係の構築が困難であること、対面授業の希望で、2年生以上では課題の量が多いことにあり、2021年度において、1年生向けの対面授業を優先的に実施すると同時に新2年生について対面授業を希望する学生が対面授業に繋がれるよう、教務委員会で履修相談を行う予定である。また学生モニター制度を利用し、学生生活の実態についてヒアリングを行った結果、履修登録において、かなり苦労した様子が伺われた。2021年度においては丁寧な説明動画をアップすることで、学生の利便性を向上させていきたい。

図書館利用については、春学期は制約が大きく、卒業論文等に関するリサーチに遅れが出たことは否めない。秋学期に際しては多摩図書館のオンライン講習の整備状況を演習・基礎演習担当者へいち早く伝えて活用を促した。2020年度第9回学部長会議資料⑮「2019年度 図書館の利用状況について(総括)(図書館事務局)」によると、2019年度の学部生1人当たりの図書館利用回数は社会学部が最も多く、学部生1人当たりの貸出冊数/年も文学部に次いで多い。社会学部において図書館の文献リサーチは研究を進めるための最重要なツールであり、2021年度も特に1年生には基礎演習などを通して、文献の探し方などの学習スキルを身につけさせるよう促していきたい。

【2020年度大学評価委員会の評価結果への対応状況の評価】

社会学部は2018年度から導入された新カリキュラムの円滑な運営を図る中で、2022年度からスタートする語学の新カリキュラムについて、将来構想委員会を中心に継続的に検討が行われ、教授会承認を得るなど、着実な取り組みがなされている点は評価できる。

また、コロナ感染拡大状況下におけるオンライン授業について、オンライン化が学生に与えた影響が検討され、2021年度は1年生向けの対面授業を優先的に実施すると同時に、新2年生について対面授業を希望する学生が対面授業に円滑に移行できるよう、教務委員会で履修相談を行うなど具体的な取り組みを行っている点が評価できる。

さらに、学生モニター制度を利用したヒアリングの結果に基づき、2021年度に履修登録の説明動画をアップする取り組みは、学生の利便性を高める取り組みとして高く評価することが出来るものであり、着実に実行されることが望まれる。

II 自己点検・評価

1 教育課程・学習成果

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

1.1 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。

①学生の能力育成のため、教育課程の編成・実施方針に基づいた教育課程・教育内容が適切に提供されていますか。

S A B

※教育課程の編成・実施方針との整合性の観点から、学生に提供されている教育課程・教育内容の概要を記入。

2018年度から導入した新カリキュラムでは、社会科学に関する専門教育は「学科カリキュラム」によって体系的に行われる。「学科カリキュラム」は、各学科がそれぞれカバーする領域に関する専門知識を身につけることができるように生まれ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

<p>ている。学科カリキュラムを構成するのは「入門科目」「学科共通基礎科目」「学科共通展開科目」「コース専門科目」の4つの科目群である。前三者は、その学科に所属する学生が共通して身につけるべき専門知識修得の3つのステップに対応している。</p> <p>1年次に履修する「入門科目」で学科がカバーする領域への導入を行った後に、「学科共通基礎科目」「学科共通展開科目」の履修によって、学科が対象とする領域に関する理論や方法論に関する理解をさらに深める。</p> <p>以上を基礎にして「コース専門科目」の履修を進めることで、関心のあるテーマに関する知識を深めるとともに、「学科共通基礎・展開科目」で学んだ知識に、より具体的な肉付けを行っていく。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※カリキュラムツリー、カリキュラムマップの公開ホームページURLや掲載冊子名称等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度社会学部履修要綱 ・2020年度社会学部カリキュラムツリー（履修要綱に掲載） ・2020年度社会学部カリキュラムマップ（履修要綱に掲載） 	
②学生の能力育成の観点からカリキュラムの順次性・体系的性を確保していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※カリキュラム上、どのように学生の順次的・体系的な履修（個々の授業科目の内容・方法、授業科目の位置づけ（必修・選択等）含む）への配慮が行われているか。また、教養教育と専門科目の適切な配置が行われているか、概要を記入。</p> <p>2018年度から導入した新カリキュラムは、「総合科目」「学科専門科目」「外国語教育プログラム」という3つの科目群に体系的に構成されている。その上で4年間の一貫教育システムを採用し、大学生活を大きく三期に分けて位置付けている。</p> <p>第一期は、1年次で入門期にあたる。この時期は、基礎演習における教員との交流、視野形成科目などの総合科目、そして所属学科カリキュラムの入門科目などの1年次から履修できる学科専門科目の受講を通して、2年次以降に知識を深めたい分野やテーマを自由に模索する時期である。</p> <p>第二期は、2年次・3年次の2年間で、専門科目の学修と研究を進める中心的期間である。この時期には、学科共通基礎科目で専門的な基礎学力を身につけ、さらに、コース専門科目の履修により自らの関心を追究しながら、学科共通展開科目の履修によって知的技能と研究手法を修得する。</p> <p>第三期は、4年次で、大学生活の総仕上げをする時期である。卒業論文の作成等を通して社会学部で4年間学んだことの集大成を行う。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度社会学部履修要綱 ・2020年度社会学部カリキュラムツリー（履修要綱に掲載） 	
③幅広く深い教養及び総合的な判断力を培い、豊かな人間性を涵養する教育課程が編成されていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※カリキュラム上、どのように教養教育等が提供されているか概要を記入。</p> <p>「総合科目」のなかの「視野形成科目」群は、幅広く深い教養と総合的な判断力、豊かな人間性を育てるという目的を達成するため、「人文科学系科目」（A群）や「国際・社会科学系科目」（C群）に加えて、「自然科学系科目」（B群）についても専任教員が担当する科目を配置し、専門教育と相互に補完しあえるような教養教育の充実を図っている。また、ワーク・ライフバランスを重視した人間形成という意味でのキャリア形成を促すことを目的とした「キャリア形成系科目」（D群）を設置している。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
④初年次教育・高大接続への配慮は適切に行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※初年次教育・高大接続への配慮に関し、どのような教育内容が学生に提供されているか概要を記入。</p> <p>初年次教育は2つに分かれる。1つめは、専門教育への導入と、スタディー・スキルや能動的な学びへの態度転換を目的とする「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」である。「基礎演習Ⅰ・Ⅱ」は、教育すべき項目を春・秋学期に分けきめ細かい教育を行っている。2つめは、基本的な専門知識の修得を目的とする所属学科ごとの入門科目などの1年次から履修できる学科専門科目である。いずれも本学部の4年間一貫教育の中の入門期に位置づけられる。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

春学期に開講する「基礎演習Ⅰ」では、大学での学修に必要な文献の読み方、文献・資料の探索・検索方法、プレゼンテーションの技法等を中心に学ぶ。秋学期に開講する「基礎演習Ⅱ」では、みずからの研究のためのテーマや問題の立て方、論文の書き方等を中心に学ぶ。所属学科ごとの入門科目では、2年次および3年次の知的技能・研究手法修得期にむけた視野の広がりや基礎知識の修得を目的とした学修を行う。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2020年度社会学部履修要綱

⑤学生の国際性を涵養するための教育内容は適切に提供されていますか。

S A B

※学生に提供されている国際性を涵養するための教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

語学では「学びたい人が自由に学ぶことができる」L字型のカリキュラムを設定している。すなわち、必修外国語科目（Basic English 1・2、諸外国語初級A・B、日本語1・2・3）で「基本的なところをしっかりと」学び、意欲に応じて外国語教育プログラム科目を履修することで、語学力を高めることができる仕組みになっている。

また、社会学部には、提携機関に留学して修得した単位が定められた上限内で卒業所要単位に認定されるスタディ・アブロードプログラム（SAプログラム）制度や、長期休暇を活用した単位認定海外短期留学制度も用意されている。しかし2020年度についてはCOVID-19により海外渡航ができないため中止となった。

また、対象領域ごとにコースを編成した社会政策科学科と社会学科には、国際性の涵養に重点をおいた「グローバル市民社会」コースと「国際・社会」コースを設置している。これらのコースに設置された科目は全学科の学生が履修可能である

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2020年度社会学部履修要綱

⑥学生の社会的及び職業的自立を図るために必要な能力を育成するキャリア教育は適切に提供されていますか。

S A B

※学生に提供されているキャリア教育に関し、どのような教育内容が提供されているか概要を記入。

キャリア教育は、「職業社会論」、キャリアセンターと合同でおこなう「キャリアデザイン論」、学科横断的な専任教員の参加による「社会を変えるための実践論」が開講されている。これらの試みを体系的に位置づけるために、「総合科目」の「視野形成科目」の中に「キャリア形成科目」（D群）が設置されている。就職活動への意識付けにとどまらず、社会での働き方や生き方を考えるという視点も本学部独自の特徴となっている。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2020年度社会学部履修要綱

1.2 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。

①学生の履修指導を適切に行っていますか。

S A B

【履修指導の体制及び方法】※箇条書きで記入。

- ・COVID-19の影響で、履修登録までの期間、google フォームによる、教務主任経験者と執行部を中心とした全学年対象の「教員による履修相談」をwebで行った。
- ・成績不振学生を対象とする個別面談は事務課による（9月実施）
- ・各コースの代表者によるコース選択のためのガイダンス（11月末～12月初旬）
- ・コース選択時期（12月上旬）の1年生対象「教員によるコース選択相談会」（複数日）
- ・基礎演習及び専門演習担当教員による学生への応談（随時）

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】※ない場合は「特になし」と記入。

・2020年度社会学部履修要綱

②学生の学習指導を適切に行っていますか。

S A B

※取り組みの概要を記入。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

本学部では1年次に基礎演習、2年次以降は専門演習が設置されており、各演習の担当教員は、基礎演習では大学への定着を含めた学習指導、専門演習では3年間の継続的な指導により可能となるきめ細やかな学習に関わる助言と支援を精力的に実施している。大学院進学など、アカデミックなニーズの高い学生に対しては、演習だけでなく、各学科で開設される実習科目や特殊講義でも教員が相談に応じている。そして、全教員がオフィスアワーを設置し、授業の受講者か否かに関わらず、学生のニーズに応じた学習指導を行っている。

2015年度より、成績不振学生に対して個別面談を実施し、学生が抱える問題の把握と解決に努めている

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2020年度シラバス
- ・2020年度社会学部履修要綱

③学生の学習時間（予習・復習）を確保するための方策を行なっていますか。 S A B

※取り組みの概要を記入。

シラバスの「授業時間外の学習」項目の記載を徹底する一方で、具体的な実践については各教員の創意工夫と試行を尊重している。授業時に配布・回収する学生からの「リアクション・ペーパー」に対する次回授業内での回答を通じた到達度の確認や、授業中および授業時間外でなされる双方向的なやりとり（質問・コメント）の重視、学生に与えた課題に対する解答を元にした授業展開、授業支援システムの予習・復習のための積極的活用など、その実践は多岐に展開されている。

しかし2020年度はほとんどの授業や定期試験がオンラインで展開されたため、教育開発学習支援センターのアンケート結果にみられるように、各授業からそれぞれ毎回のようには課題が課され、負担が重いと感じる学生が多い。これらは学びの質の向上につながっているのかについて、精査する必要がある。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・第12回学部長会議資料1、教育開発学習支援センター「オンライン授業に関する学生対象調査の集計結果について（第3報）」

④教育上の目的を達成するため、効果的な授業形態の導入に取り組んでいますか。 S A B

【具体的な科目名及び授業形態・内容等】 ※箇条書きで記入（取組例：PBL、アクティブラーニング、オンデマンド授業等）。

- ・「社会を変えるための実践論」：授業後半にバズセッションを取り入れ、複数教員による集団指導と、学生スタッフの授業運営への参加により、アクティブラーニングの実効性を担保している。
- ・「社会学への招待」：教員による集団指導。
- ・「社会調査実習」：社会調査の企画・設計から、実査、分析、報告書執筆・刊行にいたる全過程の体験・修得。
- ・「メディア社会学実践科目」：各コースの「理論」「技法」科目を基礎に学生が行うメディア表現・分析・設計。
- ・実務家などを講義に招く「ゲスト講師」制度の設置

以上について、2020年度はすべてオンラインで行った。オンライン化によって、ゲスト講師については普段ご登壇いただくことができない遠隔地のゲスト講師にご登壇いただけた。社会調査実習については、現地調査ができなかった授業も多く、過去のデータの読み解きなどの代替手段によって、学習の質を確保した。

【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。

特になし

【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。

- ・2020年度社会学部履修要綱

⑤それぞれの授業形態（講義、語学、演習・実験等）に即して、1授業あたりの学生数が配慮されていますか。 S A B

※どのような配慮が行われているかを記入。

- ・語学については、効果的な語学教育に適した均質な学習環境を提供できるよう配慮している。
- ・基礎演習については、初年次教育が円滑に進むようクラス編成に配慮している。
- ・専門演習については、原則として全学生の履修を保証するために、受け入れ学生数の目安を教授会で申し合わせている。
- ・実習科目（政策データ分析実習、政策フィールドワーク実習、社会調査実習、メディア社会学実践科目、クリエイティブ・ライティング、ニュース・ライティング）については、科目ごとに内容に即して指導可能な学生数を設定している。
- ・情報教育科目については、実習室の規模に即して、学生数を設定している。

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度社会学部履修要綱 ・専門演習について（教授会配布資料） 	
<p>⑥通常の教育課程や教育方法に加え、COVID-19への対応・対策として、教育内容、教育方法、成績評価等の一連の教育活動において工夫を講じていますか。行っている場合はその内容と教育活動の効果について教えてください。</p>	
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>2020年度はオンライン授業でもこれまでの授業の質を落とさないことを課題として取り組んだ。</p> <p>①教員間の情報の共有</p> <p>3月末以降学部教員の非公式MLで、オンライン授業を行うための動画配信や電子会議室の方法、に関する情報交換が活発に行われ、授業期間開始後いち早くこれらを使ったオンライン授業が開始できた。また基礎演習（34クラス）担当教員のMLも立ち上げ、ここでもさまざまな情報共有が行われた。</p> <p>他方オンライン授業を受講する学生のPCやタブレット、wifi環境は必ずしも整っておらず、スマホのみで受講を余儀なくされる学生もいることが予測された。そこで、例えば1年生向けの基礎演習を担当する兼任講師に向けてスマホのみの学生でもある程度リアルタイムオンライン授業を受けることができること、その時に活用すべきアプリなどを紹介したマニュアルを執行部で作成し配布するなど、機器の不十分さを補う情報の流通に努めた。</p> <p>②情報機器に不慣れな教員のサポート</p> <p>英語、諸外国語、実習、情報科目、体育、基礎演習といった科目群ごとにリーダー的な専任教員を通じて、メールのやりとりが困難な教員、学習支援システムを使い慣れていない教員等のサポートを行い、オンライン化に取り残され、質を保てない授業科目が発生しないように目配りした。</p> <p>③新入生を横につなげる</p> <p>1年生の横のつながりを醸成するため、基礎演習を活用した。Zoomでリアルタイムのゼミを行ったクラスが多かったが、中に課題提出型のオンデマンド形式のクラスもあった（6クラス）。そこで、これらのクラスについては、6月半ばより、上級生を2人一組として、昼休みにZoom懇親会を催してもらい、横のつながりをつくることに努めた。</p> <p>秋学期については基礎演習に優先的に教室を割り当て、学生と教員、学生同士のコミュニケーションを促した。</p> <p>④単位取得状況</p> <p>その結果、社会学部の学科学年別の2020年度春学期の平均取得単位数は2019年度に比べて社会学科1年生が0.1単位下がった以外は全学科学年で増加した。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度第12回学部長会議資料No.6「学部学科別平均履修・修得単位数一覧表（2020年度-2019年度）」 	
<p>1.3 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。</p>	
<p>①成績評価と単位認定の適切性を確認していますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>【確認体制及び方法】 ※箇条書きで記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・執行部と教務委員会による、GPCAデータ・評価比率データを活用した成績分布の検証（この結果、大半の教員がシラバスの「成績評価の方法と基準」項目に厳格かつ適切な基準を明記し、適切に成績評価と単位認定を行っていることが確認されている）。 	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
<p>②厳格な成績評価を行うための方策を行っていますか。</p>	<p>S <input checked="" type="checkbox"/> A B</p>
<p>※取り組みの概要を記入。</p> <p>厳格な成績評価を実施するために、本学部では講義科目の「S」評価が「上位20%程度」か、D評価が履修者の50%以上になっていないかを執行部・教務委員会で確認している。</p> <p>このほか、各科目、ならびに「3つの科目群」及び「3つの教育段階」ごとにGPCAデータを集計し、これを教員にフィードバックするとともに、集計結果に基づき成績評価の適切性に関する検証を執行部と教務委員会で実施している。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p>	

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

・ ・ 2020 年度社会学部履修要綱 (p.100、S 評価基準について)	
③学生の就職・進学状況を学部 (学科) 単位で把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。 ・就職・進学状況については、キャリアセンターからの情報を含め、執行部会議で検討している。 ・学部長会議で報告される進路状況調査については毎回教授会で報告し、学部内で情報の共有を行っている。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・キャンアセンター卒業生進路先データ、入学センター提供学部別主な就職先・学部別業種割合データ、2020 年度学部長会議資料第〇回進路状況調査結果について	
1.4 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	
①成績分布、進級などの状況を学部 (学科) 単位で把握していますか。	はい <input type="checkbox"/> いいえ <input type="checkbox"/>
※データの把握主体・把握方法・データの種類等を記入。 ・データの把握主体：執行部 ・把握方法：成績分布については、GPA を指標としてデータを構築・分析。進級・卒業状況については、学部・学科・学年単位で集計。 ・データの種類：学科別・学年別・学部全体の集計データなど。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2020 年度教授会資料	
②「学修成果の把握に関する方針 (アセスメント・ポリシー)」に基づき、分野の特性に応じた学習成果を測定するための指標の適切な設定または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
※取り組みの概要を記入。 演習の履修率、進級・卒業率、卒業論文提出率など教育成果に関する基本的データについて、執行部・教務委員会及び教授会で情報共有し、検討している。例えば、学生の学修成果の最終的な指標ともいべき「演習 3 (卒業論文)」の履修率は毎年度半数を超えており、専門演習の履修促進という本学部の取り組みが一定の成果を上げていることが確認されている。	
【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2020 年度教授会資料	
③「学修成果の把握に関する方針 (アセスメント・ポリシー)」に基づき、具体的な学習成果を把握・評価するための方法を導入または取り組みが行われていますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
※取り組みの概要を記入。取り組み例：アセスメント・テスト、ルーブリックを活用した測定、学習成果の測定を目的とした学生調査、卒業生・就職先への意見聴取、習熟度達成テストや大学評価室卒業生アンケートの活用状況等。 「能力形成期」(2～3 年次)においては、学部研究発表会でゼミやグループでの研究発表を行っている。また「総仕上げ期」(4 年次)については卒業論文の中から優秀卒論を選考し、「優秀卒業論文集」を刊行している。	
【2020 年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。 特になし	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。 ・2020 年度 FD 委員会報告書	
④学習成果を可視化していますか。	S <input checked="" type="checkbox"/> A <input type="checkbox"/> B <input type="checkbox"/>
※取り組みの概要を記入。取り組み例：専門演習における論文集や報告書の作成、統一テストの実施、学生ポートフォリオ等。 ・「学部研究発表会」での専門演習の研究成果の可視化・発信 (毎年 11 月)。 ・基礎演習・専門演習におけるゼミ論文の執筆奨励と「ゼミ論文集」「報告書」の公開。 ・調査実習科目における「報告書」の刊行・配布。 ・メディア実習科目における作品の公開。 ・優秀な卒業論文を選定した「優秀卒業論文集」の刊行。応募数 22 本、掲載 6 本であった。 ・基礎演習・専門演習の「ゼミ論文集」「報告書」刊行に対する助成金制度の応募件数が 10 件。 ・そのほか、授業支援システムを利用したレポート・ゼミ論文等の公開やインターネットを利用した成果物の発信など	
【2020 年に変更や改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価で S を選択した場合に具体的な内容を記入。 学部で実施している演習研究成果報告書の刊行助成への応募・採択件数が 10 件と伸びた (前年度 8 件)。	
【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

<ul style="list-style-type: none"> ・2020年度優秀卒業論文集 ・2020年度社会調査実習報告書（開講クラス別に刊行） 	
<p>1.5 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みも行っているか。</p>	
<p>①学習成果を定期的に検証し、その結果をもとに教育課程及びその内容、方法の改善・向上に向けた取り組みを行っていますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※検証体制及び方法、改善・向上に向けた取り組みの概要を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基礎演習：全担当者による教育方法の改善に向けた懇談会（春学期末、秋学期開始直前、秋学期末） ・調査実習科目：全担当者による来年度科目の打ち合わせ（秋学期開始時）、調査実習実施に付随する問題の共有と解決（随時）、報告書の回覧（年度末） ・学科カリキュラム運営会議での情報交換（春・秋学期各1回開催） <p>こうした機会を通して、教育成果を科目担当教員間で共有し検証するよう努めている。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	
<p>②学生による授業改善アンケート結果を組織的に利用していますか。</p>	S <input checked="" type="checkbox"/> A B
<p>※利用方法を記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各科目の結果のフィードバックにもとづき、各教員による教育内容の改善等で活用している。 ・シラバスに、「学生の意見（授業改善アンケート等）からの気づき」という項目を設けている。 	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入。</p> <p>特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2020年度社会学部シラバス 	

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・基礎演習や英語、諸外国語といった兼任講師率の高い科目群においても、1年または半期に一度専任・兼任講師の交えた懇談会を行っており、その時々の授業における問題点や学生の様子、改善策などを検討し、共有している。また各学科の教員全員が参加する「学科カリキュラム運営会議」を春・秋学期各1回開催し、カリキュラム運営の状況を評価し課題を教員間で共有している。 	

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし 	

【この基準の大学評価】

社会学部では、2018年度から導入された新カリキュラムにおいて、「学科カリキュラム」を体系的に学習するため、学科に所属する学生が共通して身につけるべき専門知識を「入門科目」「学科共通基礎科目」「学科共通展開科目」の3つのステップに分け、段階的かつ系統的な構成として実施している点が評価できる。

スタディ・アブロードプログラム（SAプログラム）制度や長期休暇を活用した単位認定海外短期留学制度を用意し、また、国際性の涵養に重点をおいた「グローバル市民社会」コースと「国際・社会」コースを設置するなど、学生の国際性を涵養に取り組んでいる点が評価できる。なお、2020年度はコロナウィルス蔓延によるSAプログラムの中止に伴い、協定先から提示された交流プログラムを紹介し、また新入生ガイダンスで国際ボランティアや国際インターンシップのオン

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

ラインプログラムの紹介を行うなどの代替措置を講じている。

キャリア教育については、「職業社会論」、キャリアセンターと合同で行う「キャリアデザイン論」、学科横断的な専任教員の参加による「社会を変えるための実践論」がそれぞれ開講されており、段階的かつ体系的にキャリア教育を行うカリキュラム構成となっている点が評価できる。

学生の履修指導については、成績不振学生を対象とした個別面談、コース選択のためのガイダンス、コース選択相談会、基礎演習及び専門演習担当教員による学生への応談など、幅広くきめ細かな対応がなされている点が評価できる。また、COVID-19の影響下においても、履修登録までの期間に google フォームを用いて教務主任経験者と執行部を中心とした教員による履修相談を行うなど、web を活用した履修指導を行った点が評価できる。

2 教員・教員組織

【2021年5月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

2.1 教員の資質の向上を図るための方策を組織的かつ多面的に実施し、教員及び教員組織の改善につなげているか。

①学部（学科）内のFD活動は適切に行なわれていますか。

S A B

【FD活動を行うための体制】※箇条書きで記入。

・学部FD委員会が、常設の基幹的な委員会として原則隔週で開催され、基礎演習の向上（教育内容の標準化等の検討）、専門演習の向上（学部研究発表

会の運営等）、実験的授業などについて検討しているとともに、学部独自の大規模授業アシスタント・学習サポーター制度を運用することで各教員のFD活動を支援している。この委員会が、執行部、教務委員会、質保証委員会とともに学部PDCAサイクルの一翼を担っている。

・個々の教員については、在外研究、国内研究・研修制度、学会出席への補助などによってその研究活動を援助することで、教員の教育研究にかかわる資質の向上を図っている。

・原則、全科目を教員相互の授業参観可としているほか、複数の教員が連携する授業では互いに授業方法について意見交換するなどして、授業の質的向上に努めている。

・基礎演習、外国語関連科目（英語及び諸外国語）、情報教育科目、調査実習科目、体育科目では、必要に応じて兼任講師を含めた担当教員の懇談会を開き、授業改善のための情報交換を行っている。

【2020年度のFD活動の実績（開催日、場所、テーマ、内容（概要）、参加人数等）】※箇条書きで記入。

・FD委員会

【開催日】4月14日、4月21日、5月12日、5月26日、6月9日、6月23日、7月7日、7月21日、9月22日、10月13日、10月27日、11月10日、11月17日、12月1日、12月15日、1月26日

【場所】Zoom

【テーマ・内容】Ⅰ. 授業支援（大規模授業アシスタント・学習サポーター、ゲスト講師、関連規程の改正）、Ⅱ. 学部研究発表会（運営方針、スケジュール・発表内容、評価・課題）、Ⅲ. ゼミ選考プロセス（専門演習紹介パンフレット、ゼミ紹介Weeks）、Ⅳ. その他（基礎演習の改革、FD推進センターとの連絡調整、FD活動の情報共有）、Ⅴ. 今後の課題（新カリキュラム合わせたFD活動の模索、「ラーニング・サポーター」の活用）

【参加人数】FD委員6名

・基礎演習担当者懇談会

【開催日】(1)7月28日、(2)9月15日、(3)1月19日

【場所】Zoom

【テーマ・内容】(1)(2) 秋学期の授業方針 (3)2020年度の学生の様子、2021年度の授業方針

【参加人数】(1)15～20名、(2)15～20名、(3)27名（担当者21名＋教務委員・FD委員・執行部各2名）

・情報教育関連懇談会

【開催日】コロナ禍により、対面での開催は見送り。兼任各先生方へメールにより必要な情報は共有。

【場所】メールによる情報共有

【テーマ・内容】2020年度実習の状況と、2021年の見通しについての説明

【参加人数】全兼任教員9名へのメール。

・調査実習運営委員会

【開催日】4月10日、9月29日、12月14日

<p>【場所】 オンライン開催</p> <p>【テーマ・内容】 (4月10日) 前年度実習のふり返り、実習担当者の確認、コロナ禍での実習体制、受講生数の把握と今後の相談 (9月29日) 調査士科目受講生数の情報共有、学科ガイダンス担当者の確認、来年度実習担当者の確認、調査士科目に関するゾーン表の確認等 (12月14日) 社会調査士資格申請希望者への指導に関する確認 ※メールによる連絡</p> <p>【参加人数】 専任教員6名</p> <p>・体育科目担当者懇談会</p> <p>【開催日】 (1)7月17日、(2)1月8日</p> <p>【場所】 Zoom</p> <p>【テーマ・内容】 (1)春学期授業のふり返り、秋学期にむけての課題整理 (2)秋学期授業のふり返り、次年度にむけての課題整理</p> <p>【参加人数】 (1)14名(専任1名+兼任13名)、(2)12名(専任1名+兼任11名)</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入 特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入 ・2020年度FD委員会報告書</p>	
<p>②研究活動や社会貢献等の諸活動の活性化や資質向上を図るための方策を講じていますか。</p>	S A B
<p>※取り組みの概要を記入</p> <p>社会学部では研究活動の活性化と資質向上のために、年4回学部紀要『社会志林』を刊行している。また、例年大学院社会学研究科と共同で教員や大学院生が研究成果を報告し意見交換を行う「社会学コロキウム」を年3回開催しているが、2020年度はコロナ禍のため開催を見送った。</p>	
<p>【2020年度に改善された事項及び新規取り組み事項等】 ※自己評価でSを選択した場合に具体的な内容を記入 ・特になし</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入 ・学部紀要『社会志林』</p>	
<p>③組織編制やFD等に関して、COVID-19への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。</p>	
<p>※取り組みの概要を記入</p> <p>年度初めに大学からオンライン授業実施の方針が伝えられた後、専任教員間でオンラインツールに関するさまざまな情報交換がメーリングリストを通じて行われ、Zoomや年度始めに稼働した新学習支援システムを用いた授業の構築に大いに役立った。</p> <p>また兼任講師が多い授業カテゴリーや実習系の授業カテゴリーについては、それぞれの科目担当の専任教員(外国語教育委員会、多摩情報センター運営委員会、社会調査委員会、体育担当教員、基礎演習担当教員)がコロナ禍での授業運営についてそれぞれサポートを行った。</p> <p>新入生の学習スキルや人間関係の構築を支える基礎演習については約半数が兼任講師であることから、担当者のメーリングリストを作成し、学部運営の情報をいち早く流したり、専任教員が兼任講師からのさまざまな相談に乗ったりした。また4月当初PCやwifi環境が整わない学生がスマホで授業が受けられるような基礎演習授業担当者用のガイドも作成した。</p> <p>新入生の履修登録やオンラインのみでの学習がスムーズに開始できるように、googleフォームで歴任教務主任による「履修相談」やベテラン教員による「よろず相談」の窓口を作成し、学部のホームページにリンクを張った。</p>	
<p>【根拠資料】 ※ない場合は「特になし」と記入 ・特になし</p>	

(2) 長所・特色

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、取り組み内容から「長所」や「特色」として特記すべき事項を記入。なお、現在「長所」や「特色」として特記すべき事項がなかった場合は、今後さらに「長所」や「特色」とする取り組み等を向上させていくために課題と考えられる点やその対応計画を記入していただく等できる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
----	---------

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S:さらに改善した、A:従来通り、B:改善していない」を意味する。

・基礎演習、外国語関連科目、情報教育科目、調査実習科目、体育科目では、必要に応じて兼任講師を含めた担当教員の懇談会を年数回開き、授業改善のための情報交換を行っている。	
---	--

(3) 問題点・課題

※上記点検・評価項目における現状を踏まえ、改善を要すると判断される「問題点」として特記すべき事項を記入。なお、「問題点」に対する改善計画がある場合には、その具体的な計画（既に実施している場合にはその進捗状況も含めて）をあわせて記入してください。「問題点」を認識し改善につなげるためにできる限り記入をしてください。

内容	点検・評価項目
・特になし	

【この基準の大学評価】

社会学部では、学部 FD 委員会が原則隔週で開催されており、基礎演習の向上、専門演習の向上など、教育内容の向上に継続的に取り組んでいる点が評価できる。また、原則として全科目を教員相互に授業参観できるようにし、また複数教員が連携する授業では互いに授業方法について検討するなど、授業の質の向上に努めている点が評価できる。

基礎演習、情報教育科目、調査実習科目、体育科目などについては、それぞれ兼任講師を含めた懇談会を定期的に開催し、授業実施上の問題点や学生の反応に応じた改善策を検討している点が評価できる。

研究活動や社会貢献等の諸活動については、年 4 回学部紀要『社会志林』を刊行するほか、大学院社会学研究科と共同して「社会学コロキウム」を年 3 回開催している点が評価できる。

COVID-19 への対応については、専任教員間でオンラインツールに関するさまざまな情報交換をメーリングリストを通じて行い Zoom や新学習支援システムを用いた授業の検討に努めた点が評価できる。

3 その他の基準の COVID-19 への対応

【2021 年 5 月時点の点検・評価】

(1) 点検・評価項目における現状

3.1 その他、学生支援や学生の学習環境や教員の教育環境整備、社会貢献における COVID-19 対応・対策を行っているか。

①その他、学部として学生支援や学生の学習環境や教員の教育研究の環境整備、社会貢献等における COVID-19 への対応・対策を行っていますか。行っている場合は、その内容を教えてください。

※取り組みの概要を記入

大規模学部であり、多摩キャンパスに位置する関係で、教室や自習室、wifi や電源の外にバスのキャパシティによって対面授業に制約が大きい。従ってオンライン・対面に関わらず授業内でも学生同士が交流しながら学び合える 1 年生の基礎演習や 2 年生以上の専門演習を対面授業の中心においてきた。

対面授業ができなかった春学期、1 年生の基礎演習では、Zoom の使用を積極的にお願ひし、教育効果の観点からオンデマンド授業を行っていたクラスについては、授業支援アシスタントのシステムを利用し上級生に昼休み Zoom 懇談会を開催していただき、新入生の横のつながりを促進した。

秋学期、基礎演習は全クラスで 1 回以上対面授業を行っていただいた。その後も継続的に 2 週に 1 週対面授業を継続したクラスが多かった（しかし多摩キャンパスでクラスターが発生したこと、感染の再拡大が始まったことによりオンラインするクラスが増加した）。オンライン参加となる遠隔地や海外の学生のためにハイフレックス授業を行えるよう、学部で所有していたビデオカメラから教室の様子を Zoom に流せるように HDMI キャプチャーを学部で購入し、ハイフレックスシステムの設営のしかたを事務課に動画マニュアルを作成していただき、体育会陸上部等に協力を仰ぎ、授業アシスタントを全クラスに配置した。

専門演習では学生のリサーチのため、図書館利用が重要であるため、多摩図書館に早期開館やオンラインによる図書館ガイダンスの要望を行った。

【根拠資料】

・特になし

【この基準の大学評価】

社会学部では、1 年生の基礎演習や 2 年生以上の専門演習について、対面授業が困難であった春学期においては、Zoom の使用を積極的に促し、秋学期においては、基礎演習は全クラスで 1 回以上対面授業を行い、その後も継続的に 2 週に 1 週対面授業を継続するなど、コロナ状況下においても学習環境の保持に継続的に努めた点が評価できる。

遠隔地や海外の学生に対しては、ハイフレックス授業を行えるよう、必要機器の購入や運用マニュアルの作成などに努め

た点も評価できる。

III 2020 年度中期目標・年度目標達成状況報告書

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】	
1	中期目標	①2018 年度から導入した新カリキュラムの円滑な運営を図る（2018 年度～2021 年度） ②2018 年度生の専門 教育が本格化する 2020 年度以降、新カリキュラムの教育効果に関する中間評価に着手し、改善の必要性についても検討する。	
	年度目標	①新カリキュラムの中での語学教育の位置づけについて将来構想委員会で話し合う。 ②オンライン授業で新カリ下の学生の学修が確保できる。	
	達成指標	①将来構想委員会において新カリキュラムの中でのよりよい語学教育の方向付けがなされる。 ②オンライン授業で新カリキュラムが円滑に運営されている。	
	年度末 報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	S
		理由	コロナ禍の中ではあったが、将来構想委員会で 2018 年度カリ変で積み残していた語学の カリキュラム変更について話し合い、2022 年度からスタートする語学の 新カリキュラムについて教授会承認を得た。 コロナ禍で突如全授業をオンラインで開始することが決まったが、短期間に学部の非公式 ML を中心にさまざまな情報交換が行われ、5 月 6 日からすべての授業が無事スタートする ことができた。また学部事務課の迅速な対応により無事例年通り履修登録を行うことが できた。
		改善策	—
		質保証委員会による点検・評価	
所見	コロナ禍の中、将来構想委員会が円滑、継続的に開かれ、2022 年度からスタートする語学 の 新カリキュラムについて教授会承認を得たことは大きく評価できる。 全授業のオンライン化についても、大学と学部の連携、学部と事務の連携が円滑かつ迅速に 行われ、授業その他が滞りなく行われたことは大きく評価できる。		
改善のため の提言	新カリキュラムの中間評価の進め方について検討を始めたらどうか。		
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】	
2	中期目標	①学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケア を実施する。 ②学習効果向上のため、授業時間外で行う学習について適切な指導を行う。	
	年度目標	①教員による履修相談会、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コ ース選択のためのガイダンスを遠隔の環境で実施していく。 ②オンライン授業で、さまざまな科目において授業時間外に行う学習について適切な指導を 行う。	
	達成指標	①教員による履修相談会、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コ ース選択のためのガイダンスによって、学生への学習指導が遠隔の環境の中で行うことが できる。 ②オンライン授業で、さまざまな科目において授業時間外に行う学習について適切な指導が 行われる。	
	年度末 報告	教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	B
理由	成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」については、コロナ禍で学生と の対面面談が困難であったため、メールによる声掛けに留まった。 授業時間外の学習については、オンライン授業のため、課題が総量が多く学生が負担に感じ ていることが教育開発・学習支援センターの全学アンケートの学部別結果でも明らかにな		

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

			ったが、特に組織的な対策は行わなかった。
		改善策	コロナ禍の推移を見守りながら、来年度は「個別学習相談会」は対面又は Zoom 等で行うことを検討したい。 学部内でのオンライン授業の実態を把握し、対面・オンライン授業の組み合わせの中で学生にとっての学修を向上させる方法を考えていきたい。
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」に対して、授業などと同様、迅速な対応がなされなかったことは、この状況に鑑みれば、ある意味いたしかたない。授業時間外の学習について、「オンライン授業のため、課題の総量が多く学生が負担に感じていること」への対策に関しては、この事態での早急の対応は不可能だったと思われる。来年度の検討課題としてはどうか。
		改善のための提言	授業時間外の学習に関しては、科目あたりの学習量がどの程度であるべきなのかについての議論がなくてはならない。たとえば、「各授業の準備学習・復習時間を各 2 時間」と考えるのであれば、今年度のオンライン授業における学習量は適切なものかもしれない。
No		評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	年度末報告	中期目標	①基礎演習の教育内容の向上、専門演習選考方法の改善に取り組み、少人数教育の一層の充実化を進める。 ②学部教育の到達点となる演習 3 について履修率を高め、卒業論文の提出率を向上させる。また、優秀卒業論文集の継続的刊行と各演習での活用を行う。 ③ゼミ論文集の作成、学部研究発表会の実施等により、専門演習の成果の発信と教育内容の充実化を図る。
		年度目標	①基礎演習の教育内容の向上のために、基礎演習担当者による懇談会の成果を活用する。 ②オンライン授業、図書館の利用制限の中で、卒業論文の指導を効果的に行う。
		達成指標	①基礎演習担当者による懇談会を web 環境で行い意見交換が行われる。 ②オンライン授業、図書館の利用制限の中で、卒業論文を提出させることができる。
		教授会執行部による点検・評価	
		自己評価	A
		理由	6 月に基礎演習担当者にオンライン授業に関するアンケート調査を行い、オンデマンド授業のクラスについては、授業時間外に学生アシスタントによるクラス懇親会を催してもらった。7, 9, 1 月と年間 3 回の基礎演習担当者懇談会を行い、オンライン授業についての非常勤講師のニーズを吸い上げ対応するとともに、授業の成果についても共有した。演習 3 の履修率、卒論の提出率に関しては相変わらず低下し続けており、対応が必要である。しかしコロナ禍の中、図書館のオンライン利用、オンライン指導等を駆使し、大過なく卒論を提出させることができた。
		改善策	—
		質保証委員会による点検・評価	
		所見	学期初めにはコロナ禍への対応方針が定まっていなかった。また対面授業が困難であった。その中で、基礎演習の実効を確保するための懇談会の実施、卒論作成のための指導等の工夫などによって、目標を達成することができたことは大きく評価できる。卒論提出率の低下は続いているが、これについては新カリキュラムの中間評価において対応を検討することが望ましい。
		改善のための提言	卒論提出率の向上については、新カリキュラムの中間評価において検討したらどうか。
No		評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	①「定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準」を満たすように入学定員の的確な査定を行う。 ②入試経路の多様化のために、必要に応じて新しい入試制度の導入を検討する。	
	年度目標	①入学定員が「定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準」を満たすように入学定員の的確な査定を行う。 ②コロナウイルス感染拡大の中で、適切に入試が行われ、学生の受け入れができる。	

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

	達成指標	①「定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準」に沿った入学定員比率を堅持できている。 ②コロナウイルスによる流動的な状況の中で、情勢を見極めつつ学生の受け入れができる。
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	4次合格まで行い入学定員に対して些少の不足というレベルであった。適正な管理ができている。 コロナ感染拡大により、転編入試験は中止したものの、他の入試経路については、オンライン面接等各種対応を行うことで、問題なく行うことができた。
	改善策	—
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	入学定員は適切に管理されている。また、転編入試験の中止はやむを得ない。目標は十分に達成できている。
	改善のための提言	—
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	①2017年度人事構想委員会答申に沿って適切な専任教員の採用を順次実行していく。
	年度目標	①教授会運営も制約される中で、専任教員の欠員状況などを確認し、必要な専任教員の採用を行う
	達成指標	①専任教員の欠員を補う形で専任教員が確保できている。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	コロナ禍ではあったが、「メディアと人間」「産業社会学」の新任人事を行い、人材を得た。
	改善策	—
年度末報告	質保証委員会による点検・評価	
	所見	コロナ禍の厳しい制約のもと、計画どおり専任教員の採用が行われ、目標は十分に達成できている。
	改善のための提言	—
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	①オフィスアワーやゼミなどによる日常的な指導および、成績不振学生を通じた個別学習相談会によって学生への修学支援を着実に実施する。
	年度目標	教職員や学生の入校が制限され、対面授業ができない中で、学習支援システムや電子会議室等さまざまなツールを用いて、学生の学習支援が的確に行える。
	達成指標	教職員や学生の入校が制限され、対面授業ができない中で、さまざまな学習支援システムや電子会議室を用いて、学生の学習支援を実施する。
	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	A
	理由	第12回学部長会議資料6によると、学生の春学期の平均取得単位は社会学科の1年生以外は軒並み前年度を上回った。ひとまずオンライン授業下での学生の学修が支障なく行われたということと受け止めている。
	改善策	—
年度末報告	質保証委員会による点検・評価	
	所見	コロナ禍により全面的に対面授業を行うことが制限された中で、オンラインツールや学習支援システムを積極的に活用し、また秋学期には主に1年生を中心に少人数の対面授業を実施するなどを通じて、学生の学習支援ができたことは評価できる。
	改善のための提言	—
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	①多摩キャンパスで取り組んでいる多摩シンポジウムの運営、多摩地域交流センター、グロ

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		<p>ーバル教育センターが進める事業を通じて、社会貢献・社会連携を行っていく。</p> <p>②大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などを通じて、社会貢献・社会連携を行っていく。</p>
年度目標		<p>コロナウイルス感染拡大の中で、学生の就学環境も悪化すると考えられる。このような社会的制約に対して、大学における学修の重要性に鑑み、学生の就学環境を支えるべく、さまざまなチャンネルで行動を行う。</p>
達成指標		<p>学生の就学、学修が良好に行えるような方策について、さまざまなチャンネルを通じて働きかける。</p>
年度末報告	教授会執行部による点検・評価	
	自己評価	B
	理由	<p>学生の就学・学習が良好に行えるような方策について、大学内ではいろいろなチャンネルを通じて働きかけ、オンライン環境の改善、1年生の対面授業や横のつながりの機会等々の確保を行ってきた。しかしコロナ禍のオンライン環境下での社会貢献・社会連携は困難であった。</p>
	改善策	<p>今年度、コロナ禍の下でも、学部内で社会貢献・社会連携の取り組みを行った教員・学生の事例を集めたい。</p>
	質保証委員会による点検・評価	
	所見	<p>コロナ禍の中で学部独自の社会貢献活動は制約を受けたが、こうした状況下にもかかわらず学部教員がセンター長を務める多摩地域交流センターによりオンライン方式でシンポジウムと交流イベントを開催し、地域への情報発信を柱とする社会連携活動を実施しており、評価できる。</p>
改善のための提言	<p>当面はコロナ禍の収束が見通せない中で、オンライン方式の活用による社会貢献・社会連携活動の実施方策を検討してはどうか。</p>	
<p>【重点目標】</p> <p>コロナウイルス感染拡大の中で、オンライン授業となり、学生の学習環境に様々な制約が厳しい中、学生に有効な学びの場を提供する。</p> <p>【目標を達成するための施策等】</p> <p>オンライン環境で効果的な授業を行えるよう、各々の教員の実践について密な情報交換を行う。</p>		
<p>【年度目標達成状況総括】</p> <p>急激に拡大したコロナ禍の下で、社会学部の非公式メーリングリスト等により、さまざまなアイデアが行き交い、春学期のオンライン授業の開始に早期に対応することができた。基礎演習についてもボランティアでメーリングリストが作成され、兼任講師も含めて担当者の情報交換が活発に行われ、授業に活かされた。そして基礎演習は例年以上に1年生にとって情報交流や人的交流の起点となった。しかし、教育開発・学習支援センターの学生へのアンケート調査学部別集計によると、授業時間外の学習については、オンライン授業のため、課題が総量が多く学生が負担に感じていることが明らかになった。これに対する組織的な対策は行うことができなかった。今後学部として、対面・オンラインの混在する学習過程を、学生から見たときに、適正な学修を可能とするものにしていくための検討が必要である。</p>		

【2020 年度目標の達成状況に関する大学評価】

社会学部では、2022 年度からスタートする語学の新カリキュラムについて、将来構想委員会を中心に継続的に検討が行われ、教授会承認を得るに至った点が評価できる。また、コロナ状況下にあつて、基礎演習の実効を確保するための懇談会を実施するなど、継続的な取り組みがなされている点が評価できる。

なお、卒業論文提出率の低下について、学部教育の到達点と位置付ける演習3の履修率を高めるための方策や優秀卒業論文集の継続的刊行と各演習での活用、卒論作成のための指導等の工夫など、可能な方法についてのさらなる検討が望まれる。

IV 2021 年度中期目標・年度目標

No	評価基準	教育課程・学習成果【教育課程・教育内容に関すること】
1	中期目標	<p>①2018 年度から導入した新カリキュラムの円滑な運営を図る（2018 年度～2021 年度）</p> <p>②2018 年度生の専門教育が本格化する 2020 年度以降、新カリキュラムの教育効果に関する中間評価に着手し、改</p>

※注1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		善の必要性についても検討する。
	年度目標	①2018 年度新カリキュラム 4 年目にあたるため、新カリ生の学びがディプロマポリシーに沿ったものとなっているかどうか評価する。 ②新カリの改善点について検討が行われる。
	達成指標	①新カリ生の卒業・進級が支障なく行われ、ディプロマポリシーに沿ったものとなっているか学部内で評価が行われる。 ②学科カリキュラム運営会議において新カリについての評価検討が行われる。
No	評価基準	教育課程・学習成果【教育方法に関すること】
2	中期目標	①学生のカリキュラムへの理解を深め、学習の効率化を図る。また、成績不振学生へのケアを実施する。 ②With コロナ、ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業を組み合わせることで質の高い授業を実現する。
	年度目標	①教員による履修相談会、成績不振学生を対象とする教職員による「個別学修相談会」、コース選択のためのガイダンスによって、学生への学習指導が遠隔の環境の中で行うことができる。 ②With コロナ・ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業の組み合わせを最適化する時間割を実現する
	達成指標	①大学の行動制限レベルを配慮しながら、最適な方法で履修相談会、成績不振学生「個別学修相談会」、コース選択ガイダンスが行われる。 ②With コロナ・ポストコロナに向けて対面授業・オンライン授業の組み合わせを最適化する時間割の検討を行う。
No	評価基準	教育課程・学習成果【学習成果に関すること】
3	中期目標	①基礎演習の教育内容の向上、専門演習選考方法の改善に取り組み、少人数教育の一層の充実化を進める。 ②学部教育の到達点となる演習 3 について履修率を高め、卒業論文の提出率を向上させる。また、優秀卒業論文集の継続的刊行と各演習での活用を行う。 ③ゼミ論文集の作成、学部研究発表会の実施等により、専門演習の成果の発信と教育内容の充実化を図る。
	年度目標	①オンライン・ハイフレックスを含んだ基礎演習・専門演習においてどのように質の高い授業が可能かについて情報収集と情報提供を行う。 ②オンライン・ハイフレックスの利用により、就職活動と演習 3 への参加の両立を促進する
	達成指標	①オンライン・ハイフレックスを含んだ基礎演習・専門演習の運営方法について情報が収集される ②新カリ導入前後・オンライン併用前後の専門演習の履修や単位取得について、情報収集が行われる
No	評価基準	学生の受け入れ
4	中期目標	①「定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準」を満たすように入学生員数的な確かな査定を行う。 ②入試経路の多様化のために、必要に応じて新しい入試制度の導入を検討する。
	年度目標	①入学生員が「定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準」を満たすように入学生員数的な確かな査定を行う。 ②2022 年度入試から導入予定の英語外部試験利用入試を着実に実施する
	達成指標	①「定員充足率における私立大学等経常費補助金不交付措置の基準」に沿った入学生員比率を堅持できている。 ②英語外部試験利用入試で定員を確保できる
No	評価基準	教員・教員組織
5	中期目標	①2017 年度人事構想委員会答申に沿って適切な専任教員の採用を順次実行していく。
	年度目標	①2021 年度に公募している「ウェブ・プログラミング」、「哲学」、「行政法」の採用人事が支障なく行われる
	達成指標	①2021 年度に公募している「ウェブ・プログラミング」、「哲学」、「行政法」の採用人事が支

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。

※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。

		障なく行われる
No	評価基準	学生支援
6	中期目標	①オフィスアワーやゼミなどによる日常的な指導および、成績不振学生を通じた個別学習相談会によって学生への修学支援を着実に実施する。
	年度目標	①コロナ禍が続く中での授業外での学生支援のあり方について検討する
	達成指標	①コロナ禍が続く中での授業外での学生支援のあり方について検討される
No	評価基準	社会連携・社会貢献
7	中期目標	①多摩キャンパスで取り組んでいる多摩シンポジウムの運営、多摩地域交流センター、グローバル教育センターが進める事業を通じて、社会貢献・社会連携を行っていく。 ②大学コンソーシアム八王子・産学公連携部会などを通じて、社会貢献・社会連携を行っていく。
	年度目標	①コロナ禍で可能な社会貢献・社会連携についての学部内での理解を深める。
	達成指標	①コロナ禍で行われている社会貢献・社会連携についての情報が収集される。
<p>【重点目標】 With コロナ、ポストコロナに向けて対面授業とオンライン授業をそれぞれどのように運営し、またカリキュラム全体の中でどう配置していったらよいか、また多摩キャンパスの立地や教室数等を踏まえてどのような時間割編成が望ましいのかを検討し、2022年度授業実施に活かしていくこと。</p> <p>【目標を達成するための施策等】 将来構想委員会を立ち上げ、With コロナ、ポストコロナに向けて対面授業とオンライン授業の運営や時間割配置、インフラ整備等を検討していく。また HOSEI2030 の柱の一つであるキャンパス再構築について現在検討・実施の中心にある多摩将来計画推進委員会における多摩キャンパスの対面・オンライン授業体制構築のための IT インフラやシステムの検討とも連携していく。</p>		

【2021 年度中期目標・年度目標に関する大学評価】

社会学部では、2021 年度目標の設定について、2018 年度から導入された新カリキュラムの円滑な運営を図る中で中間評価に着手するとされている。新カリキュラムにおける卒業・進級状況の調査、ディプロマポリシーとの整合性の評価など、学科カリキュラム運営会議において、具体的な検討が行われることが望まれる。また、オンライン授業での新カリキュラムの円滑な実施について、コロナ状況下での実践を踏まえて、教員間の情報交換をさらに進めることが期待される。社会貢献・社会連携については、各教員やゼミ活動において、コロナ状況下で行われている社会貢献・社会連携についての情報の収集と整理が行われることが期待される。

【大学評価総評】

社会学部は 2018 年度から導入された新カリキュラムの円滑な運営を図る中で、2022 年度からスタートする語学の新カリキュラムについて、将来構想委員会を中心に継続的に検討が行われ、教授会承認を得るに至った点が評価できる。また、コロナ状況下において、基礎演習の実効を確保するための懇談会を実施するなど、継続的な取り組みがなされている点が評価できる。

学部 FD 委員会において、基礎演習の向上、専門演習の向上など、教育内容の向上に継続的に取り組んでいる点、複数教員が連携する授業では互いに授業方法について検討し、授業の質の向上に努めている点が評価できる。

今後、昨年度の質保証委員会からの提言にある授業時間外の学習に関して科目あたりの学習量がどの程度であるべきなのかについて議論を含めて、With コロナ、ポストコロナに向けて、対面授業とオンライン授業をそれぞれどのように運営し、カリキュラム全体の中でどう配置するのか、多摩キャンパスの立地や教室数等を踏まえてどのような時間割編成が望ましいのかなどについて、さらなる検討を進めることが期待される。

また、社会貢献・社会連携について、各教員やゼミ活動において、コロナ状況下で行われている社会貢献・社会連携についての情報の収集と整理が行われることが期待される。

※注 1 回答欄「はい・いいえ」は基盤的・条件整備的・法令順守的な点検項目に適用し、回答欄「S・A・B」はより踏み込んだ内容の点検項目に適用。
 ※注 2 回答欄「S・A・B」は前年度から「S：さらに改善した、A：従来通り、B：改善していない」を意味する。